

## 絶えた連覇、そして迷走

前期リーグ戦を1位で折り返し、4連覇のかかった総理大臣杯の切符を手にした。1回戦の相手は大阪学大。PKで得た1点を守りきり準々決勝へ駒を進める。だが、悲劇が待っていた。早大に二度の逆転を許し敗戦。4連覇そして3冠の目標がはかなく散った。勝ち続けることの難しさを実感した大会だった。

そして、天皇杯予選を兼ねた東京都サッカートーナメントに挑む。ここで大臣杯での屈辱を晴らす絶好のチャンスが。初戦の相手が早大になったのだ。だが、駒大の迷走は続いた。早大の個人技のサッカーに駒大サッカーは鳴りを潜めまたしても敗戦。駒大サッカー部は、報われぬ努力に肩を落とした。だが、「後期に向けてすぐ切り替えた」(赤嶺)選手たちは、後期リーグに向けて走り出した。

## 王者奪還！リーグ制す

後期リーグ序盤は、ルーキーの田の活躍や守備陣の奮闘で首位をキープ。第17節中戦では、赤嶺、巻、鈴木亮、笹岡といった主力選手が出場停止という苦しい状況に。だが、代わりとされた選手の活躍が勝利を引き寄せた。「代わりという事で整理をつけるのが難しかった」と言う印出は、1ゴール上げ勝利に貢献。試合後印出の目には涙が滲んでいた。誰が出ても戦える、層の厚さを証明した。

第18、19、20節と引き分けた駒大は、遂に法大に首位の座を譲り渡す。もう後がない駒大は、第21節法大戦で3-1の勝利。首位を奪い返すと最終節筑波大戦で引き分け、リーグ優勝を決めた。今季からチーム数が8チームから11チームに増え、長丁場だった。リーグを通して「ちょっと大人になった」(秋田監督)選手たち。長い戦いの中で、誰が出て

ても戦えるチームだからこそ達成できた優勝である。

## 歓喜の国立、2冠達成！

4年生最後の大会、全日本大学サッカー選手権大会(インカレ)が12月21日幕を開けた。グループリーグを1位で通過し決勝トーナメントへ。準々決勝中京大戦は劇的勝利を収める。後半1-2で1点ビハインドの駒大。だが、88分に2得点を上げ試合を引っくり返したのだ。勝利への執念が駒大を勝利へと導いた。

関西大との準決勝、死闘を制した駒大は決勝進出を決め、相手は関東第5代表からのし上がってきた順大に。両監督が「やりやすい相手」と話すように「お互いにとって戦い方のプランを立てやすい相手」。だが、駒大は桑原・赤嶺が出場停止、原、阿部が連取で怪我という苦境で試合に臨む。前半42分には菊地が2枚目のイエローカードで退場。1人少なくなった駒大は、FWの巻をCBにコンバート。高校以来のDFにも戸惑いなくCBをこなす。そして、48分田谷のシュートを原が押し込み先制すると、その3分後原が相手ゴールを自陣でカットし田谷へ。田谷がシュートを放ちゴールネットを揺らす。55分にPKで順大に1点返さるも、駒大は必死にゴールを守り試合終了のホイッスル。その瞬間駒大イレブン喜びを爆発させ、国立は歓喜に揺れた。そして、4年生の目には涙が。大臣杯での準々決勝敗退、天皇杯への出場権を逃すなど、苦悩が耐えなかったこの1年。努力が報われた瞬間だった。

「感無量」(鈴木亮)と国立を後にした4年生。そして筑波は「来年少し3冠を取れるように頑張りたい」と既に来年に目を向けている。来年は、この国立で優勝と共に3冠達成の瞬間を迎えられることを願ってやまない。

(伊藤 優香)

## KANTO UNIVERSITY LEAGUE SOCCER

## 関東大学サッカーリーグ戦(後期)

## リーグ制覇

首位の座を守り続けてきた駒大だが、国立大戦から3試合引き分け。遂に法大に首位を譲り渡す。優勝の行方は法大との直接対決に委ねられた。負けたら優勝の可能性がなくなり追い詰められた駒大は、気持ちで勝利。首位を奪い返すと、筑波大に引き分けリーグ制覇と、王者の称号を奪い返した。



### 第21節

3 - 1 対法大

### 第22節

2 - 2 対筑波大



## ALL JAPAN UNIVERSITY FOOTBALL

## 全日本大学サッカー選手権大会

## 決勝戦

2 - 1 対順大

## 歓喜の国立

インカレは4年生にとって最後の大会。「4年生を気持ちよく送り出したい」という思いを下級生みんなが思っていたに違いない。予選リーグは、グループ1位で難なく通過。決勝トーナメントの初戦で中京大に劇的の逆転勝利を上げ決勝まで駒を進めた駒大。決勝戦は、桑原、赤嶺の両副キャプテンの出場停止と悪条件のなか、全員が戦い、粘りのサッカーで順大に勝利。連覇を達成した。

決勝戦、圧倒的に不利だった駒大だが勝利を掴み取れたのは、勝ちたい気持ちが上回ったから、そして普段の努力がこういった場面で、味方してくれたのではないだろうか。

